

五流派が伝統を受け継ぐ

棒の手は、二〜五人の演技者が棒や木太刀などを使って型を演じる武術的な民俗芸能です。修験道の護身術や呪術として生まれた棒術を起源とし、五穀豊穡を祈願する神事芸能や農民が自衛するための武術として発展しました。現在は神事要素の強い型と真剣などを用いて見せる要素の強い型があります。尾張旭市の棒の手は昭和33年に県の無形文化財に指定、昭和51年に無形民俗文化財に再指定され、五つの流派が伝統を守っています。各流派は毎年、ゆかりの寺社に演技を奉納しています。



打ちはやし

太鼓や横笛で演奏されるお囃子で「道行ばやし」「祭ばやし」とも呼ばれます。



馬の塔

江戸時代から伝わる献馬行事で、標具(だし)という豪華な馬具で飾り立てた馬を寺社に奉納します。

棒の手

演技者が手にした棒や木太刀などを打ち合わせる勇壮な民俗芸能で、寺社に奉納されます。



時代を超えて受け継がれる

次代へ繋ぐ わざ 術と舞

尾張旭市には県・市の無形民俗文化財に指定された郷土芸能が四つあり、伝承と後継者育成に努めています。

目に華やかな女踊り

ざい踊りは、主に少女が踊る女踊りの一つで、先祖供養のための盆踊りとして古くから踊られてきました。現在、尾張旭市では印場地区の鳳采会と三郷地区のみさと会が伝統を守っています。名称の由来にもなっている「ざい」とは、踊るときに両手に持つ手具のことで、長さ約40センチメートルの竹筒の先に約30センチメートルの紅白の紙房がついています。無形民俗文化財の指定曲目「傾城阿波の鳴門」では、ゆつくりとしたテンポで「ざい」を打ち合わせで踊ります。

ざい踊り

尾張旭市で古くから行われてきた先祖供養のための盆踊りで、主に少女が踊る女踊りの一つ。無形民俗文化財に指定されています。

